

## 「岐阜県長期構想中間取りまとめ」に対するパブリックコメント意見とそれに対する県の考え方

	意見(要旨)	意見に対する県の考え方	本文 修正あり
<b>IV 美しい自然と環境を守る「清流の国」づくり</b>			
<b>1 森・川・海をつなぐ清流とふるさとの自然を守る</b>			
1	スギ材に「死に節」が多く残念である。スギは見た目が大事なので、良い材をつくるために、間伐以外の枝打ちもやって欲しい。	死節を出さないためには、幼齢林の頃からの枝打ちが大切です。このため、11年生から最高30年生までの枝打ちに対して助成し、優良材生産に努めております。	
2	岐阜県の特徴は森林が多いことであるが、この森林のCO2吸収能力は岐阜県の大きな財産。高い環境浄化作用があることを県の内外にアピールしてはどうか。	本県の美しい自然・県土を守るためには、森林の持つ二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能などの多面的機能が非常に重要であり、これの維持・増進に向けた取組を進めてまいります。ご意見にあるとおり、森林の持つ多面的機能の重要性について、県民の皆様に理解いただくよう、啓発活動などにも取り組んでまいります。	
3	ここには「豊かな森林づくり」「生物の多様性を守る」という言葉が出てくる。双方は密接に関連しているが「生物の多様性を守るためにはどんな森林であるべきなのか」とい「森林づくりの目的」が読み取れない。今や、それぞれの地域によって「森林」の目的が異なる。営利目的なのか、環境(生物)保護が目的なのか、その目的をしっかりと意識したうえで森林づくりをしないと大きな誤りを犯すことになる。「緑あふれ」ていれればいいというものではない。そのため、「目的に応じた森林づくり」という視点を入れるべきである。 (例1) 林野火災後の植樹だが、やみくもに木を植えるのではなく、そもそも地元に生息する樹種であるかどうか等の視点を持って植樹しないと、善かれと思って行ったことが「善意の失敗」となることがある。ただ緑色になればいい、というものではない。 (例2) 生息域を広げようとして他の場所に移すことで、その地域に生息していたものを消失、混合させてはいけない。 (例3) 自然(山)は崩れるもの。今あるものをそのまま残そうとすることは間違いである。山火事跡地に木を植える必要性は、さしそめた崩落等の危機がない限りないと考える。	ご指摘のとおり、その地域の森林の性格を十分考慮した上で、それぞれの地域や目的にあった森林づくりを進めてまいります。 なお、岐阜市東部・各務原市山火事跡地の再生につきましては、「山火事跡地緑の再生委員会」を設置し、「緑の再生計画」を策定し、有識者の意見を伺いながら、生態系に配慮した(郷土種を中心に)樹種を植栽しました。	
4	農地の荒廃や農業の担い手不足が顕著であり、具体的な改善策が必要。県が農業法人等を運営して県内住民の全食料をまかなう企画をしてはどうか。イスラエルの農業を参考にして研究してはどうか。	農業の担い手不足や耕作放棄地の増大は、農山村地域の活力維持、美しい県土を守るという観点から、対応しなければならぬ重要な問題であると認識しており、農業の担い手確保にあたっては、新規就農支援のほか、経営規模の拡大、大規模経営体や農業法人等の育成、企業の参入促進などに取り組んでまいります。また、耕作放棄地発生防止に向けた農地の集約化や地域で農地を守る取組なども進めてまいります。	

5	<p>この構想の農業の担い手育成は、採算ベース、商業ベースでの生産者というのが前提になっているが、現状では一朝一夕にそのような生産者を育成することは難しい。しかし、農業は土にまみれ、自然と一体となれる「楽しい」「癒される」という面も持っている。農業の多面性をもっと認めてもらい、観光的な収穫体験など身近で農業が体験できるような企画も実施し、農業に慣れ親しんでもらうような施策を期待する。</p> <p>農業に興味を持っている人は多い。簡単に農業体験できるような視察を一覧で見られるようなHPを県で設置してもいい、バックアップしてほしい。農業体験を通じて、単に楽しんだりするだけでなく、農業の大切さ、農業の洪水抑制、水源涵養、土壌浸食防止、土砂災害防止、大気浄化、気候激変緩和、保健、文化的機能などの多面的機能のPRにもっと積極的に取り組んで欲しい。農業の多面的機能を県民が理解してくれれば、耕作放棄地対策にも理解が得られやすい。</p>	<p>ご意見にあるとおり、農業の担い手確保や耕作放棄地の発生防止に関しては、多様な担い手の育成や都市住民などの体験の場としての利用促進も重要であると考え、長期構想においても、女性や高齢者の就農支援や市民農園等都市住民の農地の利用を促進していく旨記述したところです。こうした取組や、グリーンツーリズムなどの農業体験など、農業を体験してもらう取組や、農業に興味を持つ方が農業に取り組むことができるための政策を進めてまいります。</p> <p>また、農地が持つ多面的機能を維持することは非常に重要であると考え、長期構想においても政策の一つに位置づけているところです。いただいたご意見も参考にしながら、農業・農村が持つ多面的機能についての啓発を進めてまいります。</p>	
6	<p>儲かる農業を掲げているが、それは平野の農業であって、本県の大半を占める山間地の農業は厳しい。しかし、山間地の農地こそ、地域の景観や水資源の確保には欠かせないのであり、中山間地の農業をどう守っていくかの視点も必要。</p>	<p>農業については儲かる農業ということで、外からお金を稼ぐ産業としての農業の振興を長期構想の重要な政策の柱に掲げるとともに、一方でご指摘のとおり、中山間地域の農地を地域全体で守っていくことも必要であり、健全で豊かな農地を守るための取組についても政策の柱として位置づけているところです。今後は耕作放棄地の発生防止・解消に向けた取組を進めるとともに、地域で農地を守るための小規模農家に対する支援も進めてまいります。</p>	
7	<p>山の大切さについて、子どもを持つ親たちの理解の深まることが重要と考え、学校の裏山の植林、整備なども大切。</p>	<p>ご意見いただいたとおり、県民が森林にふれあい、自然の大切さや森林づくりへの参加意識を高めることは重要であると考えており、地域の住民、NPO、また企業等による森林整備活動に対して支援を行うとともに、学校林の整備を行い、「緑の子ども会議」や「木育」などの森林環境教育を進めてまいります。</p>	
8	<p>貴重な生物が生息している地域に居住している方々に対して、大切さを伝えるためには「広域的な目線」が必要である。</p> <p>地元にとってはあたりまえとしてとらえているため、貴重さを把握しづらい。</p> <p>その観点から、県・国の役割は大きい。</p> <p>幅広い観点から地域資源の貴重さを地域住民に周知できるのは県・国だという認識で役割を果たして欲しい。</p>	<p>訪れたいと思えるまちづくりを進めるために、地域資源の発掘・創出は非常に重要であり、県といたしましても、地域資源の発掘・創出に意欲的に取り組む地域を支援するとともに、「飛騨・美濃・まん観光キャンペーン」などを通じてその魅力を発信してまいります。また、本県における生物の多様性を保全していくために、「生物多様性ぎふ戦略」を策定し、取り組んでまいります。</p>	
9	<p>第6章－11－V(P148)にある海づくり大会は飛騨地域にもサテライト会場を作り、県全体で盛り上げて欲しい。</p>	<p>第30回全国豊かな海づくり大会は、式典行事、放流及び歓迎行事、歓迎レセプションの開催地のほか、多くの県民の方に海づくり大会に参加頂くため、県内市町村を会場として、サテライト、協賛行事の開催に向けた取組を進めてまいります。なお、サテライトについては、県内全市町村を対象に募集を行い、開催地、行事内容等を今年度中に策定する大会基本計画に盛り込む予定です。</p>	
10	<p>P148の「V 「第30回全国豊かな海づくり大会」の開催」</p> <p>一時のイベントとして盛り上がることは想像できるが、もっと県民生活に直結するような施策を重点へ取り入れるべきではないか。</p>	<p>第30回全国豊かな海づくり大会については、一過性のイベントに終わらせるのではなく、この大会を契機に県民の皆様が岐阜県の豊かな水環境や水が育む文化などを守っていくという意識を高め、清流を育む地域づくり、人づくりにつなげてまいります。</p>	
11	<p>海づくり大会については、子供をはじめ県民の環境保全意識を高めるいい機会。海のない県として、河川だけでなく、「水の循環」の視点で事業を組み立てていただきたい。</p>	<p>長期構想の重点プロジェクトに記述したとおり、「第30回全国豊かな海づくり大会」については、森林の保全や清流の維持など川上の役割の重要性と、「豊かな森が清流を育み、川を通じて豊かな海づくりにつながる」ことを強くアピールし、この大会を契機に県民の皆様が岐阜県の豊かな水環境や水が育む文化などを守っていくという意識を高め、清流を育む地域づくり、人づくりにつなげてまいります。</p>	
12	<p>農村部の人だけでなく、都市部の人も山や清流を守っていく仕組みをつくった方がよいのではないか。</p>	<p>本県の誇る美しい清流や自然を県民一丸で守っていくことが重要であると考え、長期構想の5本の柱の一つに「美しい自然と環境を守る「清流の国」づくり」を掲げています。美しい山や川を守る取組については、ご指摘のとおり、農村部の方だけでなく都市に住む方も、また上流の方だけでなく下流に住む方も含め、県民全体、あるいは県境を越えて取り組むべき課題であり、上下流連携の取組や「ぎふの清流を守り育む県民運動」などの取組により、県全体で進めてまいります。</p>	

13	プロジェクトを支える要素として「美しい緑」とは何なのか、「清流づくり」とは何なのか、その価値を正しく理解し、岐阜県の美しい森、美しい川、「飛山濃水」をアピールすることができる専門部課、職員の充実が重要。その観点を盛り込んで欲しい。	ご指摘を踏まえ、県職員においても専門的知識を持って施策を進められるよう、知識の習得に努めるとともに、自然教育に携わる指導者の育成・確保に取り組んでまいります。なお、森林づくりについては、啓発も含め林政部を中心に、また、清流づくりにつきましても、環境生活部を中心に、担当部署を定めて推進しているところです。	
14	山を守ることはすなわち川・海を守ることである。昔のようなナラやブナの原生林を守りながら、適正な森林管理をお願いしたい。	ご指摘のとおり、豊かな森林づくりが清流を育み、豊かな海づくりにつながると考え、長期構想においても「森・川・海をつなぐ」という文言によりこうした認識を強調しているところです。こうした認識のもと、多様な森林整備対策を進めてまいります。	
15	少子化と高齢化に伴い農山間地域は大きな転機を迎えている。特に高度成長時代に農地を離れ、工業一辺倒に偏り、離農した経緯、さらに食糧の自給を放棄したかのように、輸入品に頼り、農業政策は休耕地から放棄地になろうとしている。また森林地は荒廃の道に進もうとしている。特に限界集落といわれる高齢化の進んだ山間地域では、防災すら守れないような状況にあるのではないかと。特に民有地では山は荒れ放題、過去に北海道において「海のノリ」が大変な状況になったとき、地域の人々は「山の養生」に励み、見事に生き返らせているとの報道に接し、地球温暖化による集中豪雨で下流が大きな被害を受ける、するとすぐ「ダム」対策を採ろうとするのが霞ヶ関の考え。多くの山間地域を持つ岐阜県では、公有地、民有地に対する保全のシステムを作り防災にも、美しい山間地域にも、高齢者が多く住む山間地域にも希望を持てる施策が必要であると思う。	今後人口減少に伴い、山間地域等においては集落維持が困難となる地域の出現のおそれがあり、長期構想においても、農山村地域の活力維持に向けて農林畜産業を育成し、地域の所得確保に取り組むとともに、過疎地域における生活を守るために、医療・福祉・商業など地域の関係者と協議し、過疎(豪雪)地域内の二地域居住の促進や公共交通や地域医療の確保など地域の課題に適切した取組も進め、都市部においても過疎地域においてもその地域に暮らす県民の皆様が安心して暮らせるよう、取組を進めてまいります。 また、ご指摘のように、森林には水源かん養機能、土砂流出防止機能、二酸化炭素吸収機能など、県土や環境を守る多面的機能を持っており、間伐の推進、長期伐期施策、複層林施策、針広混交林への誘導などの取組を進め、森林の持つ多面的機能を維持・増進し、災害に強い、環境を守る森林づくりを進めてまいります。	
16	「美しい緑と清流づくりプロジェクト」「ぎふエコプロジェクト」の重点プロジェクトは、岐阜県の誇る自然を生かした課題として挙げられたことは評価が出来る。しかし短期、中期、長期に渡り実施、検証していかなければならぬ項目もあり、継続したプロジェクトとなるように期待したい。	ご意見のとおり、自然を守る取組や循環型社会づくりの取組については、その効果が短期で現れるものではなく、期間を区切るものではなく、永続的に取り組んでいくべき政策であると考えます。長期構想については、そうした政策の中で、今後10年間に県が取り組むべき政策を切り取ったものであり、10年間の取組を考えるにあたっては、その先の将来も見据えたものとなっております。	
<b>2 循環型社会づくりと、地球温暖化の防止に取り組む</b>			
1	p106 第5章IV-2循環型社会づくりと、地球温暖化の防止に取り組むについて、低炭素社会は厳密には言葉として間違っているかもしれない。炭素を減らすのではなく二酸化炭素を減らすので。今は3Rではなく4R(＋リフューズ断る)らしい。	地球規模での課題である温暖化防止に県としての役割を果たしていくとともに、循環型社会づくりに向けた取組を、長期構想の重要な政策の一つに位置づけております。ご意見にありますように、地球温暖化防止に向けて温室効果ガス削減の取組を促進するとともに、Refuse(断る)についてもレジ袋削減などの取組を強化するなどの取組を進めてまいります。	
2	生ゴミ処理機など自治体によっては取り組みがなされているが、畜産系の廃棄物や給食の残飯を肥料として処理するなど、全体的なりサイクルの仕組みづくりを各地区毎に取り組んで欲しい。	リサイクルを含む3Rの促進は循環型社会づくりにとって非常に重要であり、長期構想においても政策の一つに位置づけているところであり、「もったいない・ぎふ県民運動」などの県全体での運動を展開するとともに、3Rに向けた取組を進めてまいります。 また、ご指摘にありました畜産系廃棄物のリサイクルについては、各農林事務所毎に畜産たい肥の利用推進に関する相談窓口を設置しております。また、行政機関、農協などを構成員とする耕畜連携農業推進連絡協議会において、たい肥の利用促進の課題の検討や優良事例情報の共有に努め、たい肥の審査会・利用研修会などの開催に取り組んでおり、今後もリサイクル推進に向けた取組を進めてまいります。	
3	徹底したリサイクル、ムダ排除でクリーンな県に。地産地消の徹底。	本県の持つ美しい自然、環境を守ることは、岐阜県という地域空間を代表する機関として、県が取り組むべき政策であると位置づけ、長期構想の政策の柱に「美しい自然と環境を守る「清流の国」づくり」を掲げたところです。ご意見にあるとおりリサイクルを含む3Rを進めるなどの取組を通じ、美しい本県の自然を守ってまいります。 また、最近の食を取り巻く様々な問題などを背景に、顔の見える生産物を地元で消費する観点から、地産地消に対する関心が高まっております。こうした機運を背景に、県としましては安全・安心な農産物の生産振興はもとより、県産農産物の県内での消費の拡大を推進しております。	

4	<p>岐阜県の特性を活かし、森林・河川資源を活用し観光にも結びつけられるプロジェクトはどうか。</p> <p>山間部の広大な土地を選定し循環社会のモデル定住型地域に指定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電力は水力、太陽光など自然エネルギーのみ</li> <li>・放牧もふくめた自給自足</li> <li>・指定地域の周囲は医療や教育・福祉施設などを充実させてバックアップ</li> <li>・観光や体験を受け入れる</li> </ul> <p>経済の進んだ地域もあって良いがこのような地域もあっていいのではないか。</p>	<p>ご提案にあるとおり、本県には飛山濃水の美しい自然などの誇れる地域資源を有しており、こうした地域の魅力を活かしたまちづくりなど、国内外から人と消費を呼び込む取組を進めてまいります。県といたしましては、それぞれの地域が持つ地域資源を活かしたまちづくりの取組に対する支援を積極的に行ってまいります。また、太陽光発電や小水力発電、木質バイオマスエネルギーなどの自然資源を活かした新たなエネルギーの導入に取り組む地域に対する支援も進めてまいります。</p>	
5	<p>人口減少、経済縮小傾向が避けられない中、今、何よりなすべきことは、右肩上がりの従来型成長からの脱却であり、環境対策、地球温暖化対策などを加味した施策(足るを知る)を中心とすべきである。岐阜県他県に勝る強みは、自然の豊かさであり、その天然資源を活かすことが、もっとも岐阜県らしい取り組みと考える。例えば、議定書にもとづく森林吸収を達成するためには、植林だけでなく、適切な管理とその結果生産される木材資源の活用が不可欠であることや、農地についても環境保全上の重要な鍵であることを認識し、農産物の地産地消を推進することなどである。</p>	<p>長期構想においては、人口減少が避けられない中、持続可能な地域づくりを進めていくという視点を重視している点に大きな特徴があると考えております。こうした視点で政策を進める上で、本県の持つ豊かな自然を守り伝えることは県が取り組むべき重要な政策であると考えており、「美しい自然と環境を守る「清流の国」づくり」を政策の5本の柱の一つに位置づけているところです。いただいたご意見を踏まえ、多様な森林整備による森林の多面的機能の維持・増進、木材資源の有効活用、農地が持つ多面的機能の維持、地産地消の拡大など、自然の豊かさを守る取組を進めてまいります。</p>	
6	<p>環境問題をつきつめれば、人の生き様であり、生活そのものである。先の洞爺湖サミットでも見られたように先進国、新興国、途上国間の資源分配をどのように出来るかということである。日本のような豊かな国がこれを維持したまま、途上国等の生活レベルを上げることは至難の業である。われわれは、縮小均衡を甘んじて受ける中で、新たな経済循環を見出し、岐阜県が率先してそのモデルとなるべきである。</p>	<p>長期構想については、本格的な人口減少など大きな時代の変化を正面から見据え、県が直面すると考えられる課題とその解決に向けた政策を提示し、こうした時代にあっても県民が安心して暮らし続ける地域づくりを目指すものです。ご意見にあるとおり、右肩上がり時代のモデルとは異なる考え方で政策に取り組む、人口減少時代の新たな地域づくりのモデルを構築してまいりたいと考えております。</p>	
7	<p>昨今世界をあげて環境です。抜群の岐阜県が世界をリードする自然環境目標と政策は工夫できないでしょうか？例えばスイスのある町では、CO<sup>2</sup>発生の乗り物は禁止され電気自動車か馬車または徒歩だけが交通手段です。それを売物の結構有名な観光地で多くの皆さんが訪れ満足して楽しんでいます。いっそ、高山などを徹底的にそのようなまちづくりする政策はいかがでしょうか。きっと世界にアピールし、また注目されるでしょう。</p>	<p>本県には飛山濃水の美しい自然などの誇れる地域資源を有しており、こうした地域の魅力を活かしたまちづくりなど、国内外から人と消費を呼び込む取組を進めてまいります。県といたしましては、それぞれの地域が主体的に行うまちづくりの取組に対する支援を積極的に行ってまいります。また、太陽光発電や小水力発電、木質バイオマスエネルギーなどの自然資源を活かした新たなエネルギーの導入に取り組む地域に対する支援も進めてまいります。</p>	
8	<p>現在、岐阜県は車に依存した社会構造になっている。長期構想の中にもあるように、岐阜県は山林に恵まれた美しい県土である。車社会から昔ながらの自然を保全していくという構造にシフトすべき。</p>	<p>今後持続可能な社会の構築に向けて、天然資源の有効活用や温室効果ガスの排出抑制が必要であると考えております。そのため、長期構想においても「循環型社会づくりと、地球温暖化の防止に取り組む」を政策の一つに掲げ、「ぎふエコ宣言」などの取組を通じ、県民の皆様のライフスタイルの転換を促進する県民運動を進めてまいります。</p>	
9	<p>可燃ゴミ処理施設は各市ごとで運営されているが、施設の老朽化メンテナンス等で、改修や新設を余儀なくされるが、ごみ処理は事務連合であるといのまとまった地域(圏域)で統一した基準のごみ処理や資源ごみリサイクルを設け、一つのごみ処理施設を使う。県の主導によってできることだと考えます。</p>	<p>一般廃棄物の処理につきましては、市町村の取り組むべき役割に位置づけられておりますが、県といたしましては、廃棄物の発生抑制を主眼とした3R推進に向けた啓発等を行うとともに、市町村の取組に対する技術的援助を進めてまいります。</p>	
10	<p>P108の環境教育に関する情報の共有が不足している。もっと公開すれば関わる人も増え、より効果が得られる。</p>	<p>循環型社会をつくっていくためには、子どもの頃からの環境教育により、日常的に環境問題を意識して生活できる人材を育成していくことが重要であり、環境教育をより一層進めてまいります。ご指摘のとおり、環境教育についてより広く広報することも重要であり、多様なツールでの広報に努めるとともに、地域住民組織、NPO、企業などと連携した取組を進めるなど、県民の皆様がより身近に体験できるよう、取組を進めてまいります。</p>	
11	<p>地球温暖化について、学校でも道徳みたいに環境の時間を設けていただくなど、もっと生活に密着した地に足をつけて早く、もっと早く！重大だ！！ということをお伝えしたいのですが。</p>	<p>地球規模での問題である温暖化防止についても、県としての役割を果たす必要があると考え、長期構想においても、地球温暖化防止対策を政策の柱に位置づけたところです。いただいたご意見を踏まえ、県民総参加での温室効果ガス削減に向けた取組を強化するとともに、児童生徒をはじめ県民の皆様への環境教育を充実させます。</p>	

12	<p>環境教育にはいくつかの視点がある。その視点をつなげてより効果的な環境教育を推進していく必要がある。(環境教育における横のつながりを意識する。例えば「食の安全」「フードマイレージ」の視点から「地球温暖化防止」につなげていくなど。)</p>	<p>環境教育を進めるにあたっては、NPOや企業等多様な地域の主体と連携した取組を進めていきたいと考えており、その中でご指摘の他分野とのつながりなども意識しながら取組を進めてまいります。</p>	
<p><b>3 自然資源等を活用した新たなエネルギーをつくり出し、活用する</b></p>			
1	<p>・個人や企業がそれぞれ自然エネルギー導入を行えば、個々の効果は小さくても集まれば効果は大きくなり、まさに県民参加型の政策である。 ・自然エネルギーの導入は行政だけではやっていけないし、趣旨にも反する。</p>	<p>長期構想においては、太陽光や水力などの自然資源等を活用した新たなエネルギーをつくり出し、活用するための取組を重要な政策と位置づけたところです。 今後は、ぎふエコプロジェクトの一環として、太陽光発電の導入促進などの取組を進めてまいります。が、自然エネルギーの普及・拡大を図っていくには、行政だけでなく、住民や企業と連携して取り組んでいくことが重要と考えており、ソーラーのまちづくり推進協議会の設置など、地域と連携した取組を進めてまいります。</p>	
2	<p>5章IV-3「自然資源等を活用した新たなエネルギーをつくり出し活用する」について、今後、どこに重点をおくのかを明確にしたほうがよい。産業用エネルギーと民生用エネルギーを明確に分析して、施策を進めていくべきでないか。</p>	<p>自然エネルギーの導入促進に当たっては、民生部門や産業部門の取組を促進・支援していくとともに、グリーン電力証書を介した仕組みの構築なども地域や県全体としての普及を進めていくうえで重要と考えております。 このため、今後の事業実施等に当たっては、長期構想に掲げた政策の方向性や重点プロジェクトに基づき、いただいたご意見も踏まえて、家庭や企業における自然エネルギーの導入が円滑に進むよう取り組んでまいります。</p>	
3	<p>自然エネルギーなどの新エネルギーの導入促進も大切であるが、地球温暖化防止のためには省エネルギーに重点をおくべきではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、省エネルギーの取組も重要であると考えており、重点プロジェクトにおいても「省エネルギーの促進」に向けた取組を掲げたところです。 今後は、省エネルギー多消費の産業や小規模企業等を対象とした省エネ診断や、制度融資による設備導入に対する支援などの取組を進めてまいります。</p>	